

## 運輸安全委員会業務改善有識者会議（第5回） 議事概要

### 1. 日時

平成25年11月6日（水） 15:00～17:15

### 2. 場所

運輸安全委員会委員会室

### 3. 出席者

有識者：安部座長、佐藤委員、芳賀委員、柳田委員

運輸安全委員会：後藤委員長、石川委員、遠藤委員、田村委員、松本委員、小豆澤委員、横山委員、庄司委員、室谷事務局長、鈴木審議官、長谷川総務課長、工藤首席航空事故調査官、中山首席鉄道事故調査官、小須田首席船舶事故調査官

### 4. 議題

- (1) 業務改善アクションプランの実施状況について
- (2) 事故等調査の成果の活用について
- (3) その他

### 5. 概要

冒頭、後藤委員長から挨拶を行い、以降、議題に沿って事務局から資料を説明し、委員との意見交換を行った。

#### (1) 業務改善アクションプランの実施状況について

事務局より、業務改善アクションプランの実施状況について、総合的に報告したところ、有識者から、以下のような意見があった。（資料1-1、資料1-2）

- ・鉄道事故調査官の数が、航空事故調査官、船舶事故調査官と比較し、相対的に少ないように見受けられる。中長期的には、人事の流動化や教育の充実により、重要性の高い事故について手厚く調査できるよう、体制強化を図って欲しい。
- ・運輸安全委員会として何を調査対象とすべきか、きちんと整理すべきではないか。

#### (2) 事故等調査の成果の活用について

事務局より、社会全体の安全度を高めるため、複数の事故等調査を束ねて分析等を加えたものを社会に発信する、事故等調査の成果の活用について説明を行ったところ、有識者から、以下の意見があった。（資料2-1、資料2-2）

- ・福知山線列車脱線事故調査報告書（概要版）について英語版を作成されたのは、大変素晴らしい。国際的に見ても有益な取り組みである。
- ・船舶事故ハザードマップの取り組みを高く評価する。論文や学会等を通じ、積極的に普及を図って欲しい。

- ・船舶事故ハザードマップは、情報提供の充実という局面に留まらず、これを個別の事故等調査に活用することで事故の背景要因を捉えることができるため、事故等調査の高度化、深度化に大きく貢献すると言える。
- ・船舶事故ハザードマップは、小さな事故等も含め調査し傾向を分析するという「疫学的」なアプローチをしており、評価できる。

### (3) その他

事務局より、平成 20 年運輸安全委員会発足時の衆参両院国土交通委員会における附帯決議への対応状況等について説明を行ったところ、有識者から、以下の意見があった。(資料 3-1、資料 3-2、資料 3-3、その他全般)

- ・船舶事故ハザードマップの開発・普及や、勧告・意見等の積極的な発出についても着実に取り組まれており、評価できる。
- ・事業用自動車の事故は、事故の要因において労働に起因するところが大きい。また現実的には自動車事故の研究やノウハウは、色々な研究所等に分散している。今回、外部に専門の調査機関を設置することとしたのは評価できる。将来的には、他省庁の知見も活かせるよう、もう少し幅広い枠組みを作って調査を行えばなおいいと考える。
- ・運輸安全委員会で鉄道踏切事故についての調査を充実するのはいい方向。どのような事故等について、運輸安全委員会が調査を行わなければならないのかをきちんと整理しておく必要がある。専門性が高くて、要因が複雑に絡んでいるようなものを解きほぐすことでより安全性が高まる、社会に貢献するような事故調査が、運輸安全委員会に求められている役割だと思う。
- ・故意ではなく犯罪がらみでもない運輸事故の事故調査は刑事捜査から独立しているべきであるので、鑑定嘱託にかかる協議については、現実問題としては難しいテーマであることは理解できるが、引き続き努力されたい。
- ・福知山線列車脱線事故調査報告書に関わる検証メンバー会合として出した提言を受け、運輸安全委員会においては、事故調査の高度化や積極的な提言の発出という業務改善について、予想以上のスピードで充分に取り組まれている。また、組織的な要因に踏み込んだ分析についても充実してきているが、引き続きさらにご努力頂きたい。

### 6. 業務改善有識者会議の今後のあり方について

業務改善が着実に進捗しているとの評価を踏まえ、来年度以降の会議の進め方については安部座長に一任された。